

講座利用法と講座案内

test skills

いわゆる難関大の英語とは、文法・構文・単語等、英語そのものの力はもちろん、幅広い知識と文脈と行間を読み取る感性と想像力、そして日本語の表現力が求められます。この講座では1年を通して英語読解の授業にプラス「実践力」と英語の「総合力」強化を目指します。具体的には前期で長文読解のテクニックを伝授します。英文のパラグラフパターンを知り、速く正確に読むことを第一の目標として、それから先の「長文読解問題」の解法を学習します。「英語読解」の講座で身に付けた精読力をこの講座でさらに発展させます。後期では精読力に速読力、内容把握力をプラス、解答力強化を図ります。志望校に合わせた攻略法も勿論、余すことなく伝授します。英語で他の受験生に差をつけるトップレベルの講義です。難関大学を目指す受験生は英語読解の授業と併せて受講してください。

ハイレベル英語読解

最終目標は国公立2次試験、難関私大で合格点を取れる力を身につけることです。難関大学で出題される読解問題は、英文の内容理解ないしは情報習得を目的としたものが多く、正確に英文を読む力が試されます。単語や構文をただ丸暗記して意味をつなげるだけではなく、一見難しい英文でも基本知識を使って和訳できるようになるまでの力を身につけてもらいます。文の構造を説明を聞いて理解できるレベルから自分で説明できるレベルまで引き上げます。当然ハイレベルクラスなので、扱う問題などは難易度が高く、最初はかなりしんどいと思いますが、第一志望に合格するためにしっかりとついてきてください。

スタンダード英語読解

大学受験における英語の問題では、主に長文読解が絡んだものが出題されます。では、長文を読めるようになるためには、何ができればならないでしょうか。大学入試の英語長文の特徴は一文一文が長く、文構造が複雑になっていることが多いところです。さらには選択肢になっている英文も、きちんと読めなければどれも同じようなことを言っているように見えてしまいます。まずは一文一文を「きちんと読める」状態を作ることが大切です。一見、遠回りのように思えるかもしれませんが、入試という大事な場面でフィーリングで乗り切るのは無謀です。なんとなくでは合格点は取れません。前期は基礎(文構造の分解)から始め、夏までに英文をきちんと読める段階まで持っていきます。英語は自分のレベルに合ったところから始めることをお勧めします。毎年このクラスからスタートして国公立、関関同立まで到達している生徒が何人もいます。

実践英文法

英文法の問題と言えば、「四択問題」、「並び換え問題」、「誤所指摘問題」と様々なパターンを思い浮かべることと思いますが、全ての問題に共通して求められる力は、文法理論を正しく理解し、それを問題解答に応用できる力です。英文法の勉強が問題集をたくさんやって、よく似た表現をたくさん暗記するようなやり方ではないです。英文法はただの暗記ではありません。英文法は英語を理解するためのルールです。各単元のルールを覚え、それをどのように使って文法問題を解くのかを授業で説明していきます。授業では文法力の質を高めて、課題演習でたくさんの量をこなしながら得点力を高め、最終的には入試の英文法問題を根拠をもって正解を導き出せるようになってもらいます。また長文読解のカギとなっているのが、この英文法です。この講座で文法理論を正しく理解することで、読解の能力は飛躍的に向上します。

実践英作文

英語の学習で自分で勉強することが一番困難な分野が作文です。構文をしっかり押さえていけばいいという訳ではなく、単語・熟語を知っていればいいという訳でも、文法を駆使すればいいという訳でもありません。作文で一番大切なのは発想力と練習です。特に、国公立の英作文においては、難解な日本語を英語に直させるケースが多く、日本語をいかに易しい文章に、また英語らしい文章に作り直すことができるかが最大の焦点であり、そこでこの授業が活かされてきます。この講義では、皆さんに毎回、頻出事項を理解してもらい、実際に書いてもらいます。書いたものは添削してお返しします。英作文が課されている大学を志望している方を対象に、様々な出題形式の問題を通して、表現力の向上を図るとともに、英語力そのものに磨きをかけていきます。

現代文

入試現代文と高校の現代文では求められる学力が全く異っており、しっかりと対策を行わなければ、大学入試の現代文で合格点をとることはできません。また知識の暗記ではなく、正しい「読み方」と「解き方」を身につけることが必要であるため、現代文は独学で勉強するのが最も難しい科目でもあります。この講義では、設問で要求されている情報を本文中から的確に抽出するコツを教えます。また近年のセンター試験のように限られた時間の中で、素早く正しい選択肢に辿り着く力が求められる試験では、テクニックも必要となってきます。この講義では正しい「読み方」「解き方」に加え、様々なジャンルの問題に対応できる「読解法」を伝授します。授業では、生徒が自分で活用できる「読解法」に徹底してこだわり、いかなるテストでも高得点を狙える実践力をつけていきます。

講座利用法と講座案内

私大古文／センター古文・漢文

入試における古文は90%以上が解釈からの出題になります。古文攻略には「単語」「文法」の知識は勿論、読み慣れと実践演習が欠かせません。この講座ではセンター、難関私大、国公立二次に対応できる総合力を身につけるために、実践的な問題演習を行います。基礎知識が備わっていることを前提に、読解のテクニックを余すことなく伝授します。多くの高校生にとって、数学や英語の勉強に時間を取られ、古典にまで手が回らないのが現状です。しかし、大学入試における古文は、題材となる文章はそれほど難解なものではなく、標準的なものが出題されているため、現代文と比べると対策がそのままで得点に結びつきやすいです。特にセンター古文・漢文は満点が狙える科目であるため、国語で高得点を獲得するためにも古典はしっかりと対策すべきです。前期は読み慣れをつくりながら文法事項のチェックや肉付けを行います。夏以降は実践形式の問題演習を行いながら読解や解法のコツを習得してもらいます。有名な出典を扱い、その時代背景や物語の流れなど、最新の入試傾向も踏まえて、実力のつく講義を行います。

数学関係

現在の日本の受験勉強の風潮において「大量の演習と暗記の繰り返し」が、その唯一の学習法であるかのごとくなっています。確かにこの方法で大きな成果を生むことも事実です。しかし、それは元々数学が得意な生徒、論理的思考能力ができあがっている生徒に限って有効です。実際の入試問題は見たことのない問題が出題されて、考察しなければならず、そのような問題で合否が分かれます。センター試験ですら、問題集に載っていない問題が出てきて、考える力が試されます。むしろセンター試験のほうが中堅私大よりもその傾向が強いです。本講義では根底からの理解を目指し、豊かな論理的思考力を形成することを目標とし、1つの解答の理解からさまざまな問題を考えることができる数学学習を実践していきます。「どのような解法があるのか」という勉強をするのではなく、「どのように考えるのか」という考える力をつけることに重きを置き、生徒自らが実践し使いこなせるようになるまで徹底的に指導します。

受験物理

物理は満点を取ることが可能な科目です。しかし問題数が少なく、解法を思いつかなかったり、計算ミスをするだけで一歩間違えると本番であまり点数が取れない危険も大きい科目です。そこで確実に得点するためには「どういう現象にはどの公式を適用するのか」といった解法パターンを数多く理解することが必要です。ひとつの問題で様々なパターンが存在します。そのパターンを一度目を通しておくのとおかないのでは、雲泥の差です。受験ではどのパターンが出題されるかわかりません。そのためには数多くの問題に触れ、解法を学ぶ必要があります。講義では演習を中心に進め、基本事項から発展的内容まで丁寧に解説いたします。1年を通して問題の現象に法則や公式を正しく適用して考える力、そして高得点を狙える実践力を養います。

受験化学

化学は、膨大な数の物質や化学反応式が登場するため、どの内容を覚えるべきか、自力で判断するのが非常に難しい科目です。また、計算問題や実験など、思考力を必要とする内容も数多く出題されます。ですから、この講義では、頻出内容を網羅し、典型的な問題を確実に解けるように、ポイントを押さえた授業を行います。暗記分野で得点できるようになると、化学の成績は一気に上昇していきます。この講義では暗記を簡略化できるようなテクニックや、単元別のポイント、頻出問題などを取り扱い、理解と演習をバランスよく組み合わせしていきます。前半で「化学基礎」をしっかり押さえ、1年を通して2次試験にも対応できる応用力を養います。また分野融合問題や実験考察問題を解くための問題文の読み取り方や、計算問題など実践的な演習もふんだんに取り入れ、得点差の出る分野で勝てる「化学」を目指します。

受験生物

生物は暗記だけで乗り切れると思っている生徒が多いようですが、実際はそうではありません。近年の生物入試では生物の計算やグラフ問題の出題比率が高くなっており、丸暗記が通用しない科目となっています。暗記と理解をバランスよく取り入れることが、センター試験で高得点を狙う上で、絶対の条件となります。新課程での「生物基礎」では重要事項以外にも細かな知識が問われたり、知識を基にデータから考察する問題が出題される傾向があるため、全分野をしっかりと押さえ、苦手を作らないことが重要です。またセンターでは短い時間で多くの情報を読み解く処理能力が必要とされるため、演習による訓練が絶対条件となります。どんな分野や難易度、出題形式に対しても十分対応できるだけの真の実力をつけさせます。

講座利用法と講座案内

日本史

社会科目は知識の量の差が顕著に得点に現れる科目です。「社会は暗記科目なので、自分でできるから大丈夫」と、社会科目を軽視している人は多いと思います。しかし、実際の受験では合否を大きく決定づける科目となります。「いかに効率良く勉強するか」が、現役合格を大きく左右することは言うまでもありません。特に、学校の授業が網羅的なものになりがちな日本史という科目では、どれが重要でどれが重要でないか、判断することが必要になってきます。しかしながらその判断はおそらく、受験生だけでは下すことが出来ないでしょう。この講義では、センター試験や私大入試における頻出かつ必出事項を厳選し、「日本史嫌い」の人にとっても、わかりやすく丁寧にお伝えすることで、合格への最短コースをご案内します。

世界史

多くの受験生が、世界史を得点源にできず苦しんでいます。そういう意味では“世界史を制するものは受験を制す！”といっても過言ではありません。通年授業では各予想問題を解きながら、国別、時代別と背景を明確にし、流れの理解に努めます。文化史に関しては、講習会で対応し、1年で世界史をすべて網羅します。“試験に出題されることのみを追求した一切無駄のない板書”を使用し、難易度別にきれいに整理していきます。また政治史・文化史の全範囲を扱うため、万全の状態の入試に挑むことができます。明るく・楽しく・誰よりもわかりやすい世界史を皆さんに提供いたします。

地理

センター地理の難易度はバラつきがきわめて大きく、目をつぶっても答えられるものから教科書を見ても即断できないものまで混交しています。前者のような問題ばかりなら大助かりなのですが勿論そうではなく、「教科書の知識」だけでは対応できない多岐多様な範囲から出題される点が他の社会科目と地理との大きな違いで、受験地理の特徴です。他の歴史科目と違って「教科書がほとんど役に立たず」、また勉強量に比例して伸びる科目ではありません。受験地理で最も重要なのは「覚えること」ではなく「考えること」です。この授業では問題演習を通して、知識の整理と定着を図り、地図帳や統計資料を用いて実践力を養います。